

柏市こども若者計画(案)に係るパブリックコメント実施結果

- 1 実施期間
令和8年6月18日(木)から令和8年7月17日(金)まで
- 2 パブリックコメント提出数
20名より計22件
※内1件「特になし」といった御意見
- 3 御意見等及び市の考え方

No.	御意見等(原文ママ)	市の考え方
1	子ども若者への施策制度は大いに賛成ですが、柏市の人口規模や都市としての位置付けからすると、投資の規模や施策の規模は小さいと言わざるを得ない。 てとてなどの施設は良い試みだが、小中学生が利用するにはまだ一部の地域に限定されている。 多くの子どもに提供することが望ましく、地域展開をするべき。公園の整備も遅れており安全かつ子どもが集まって楽しめる環境をもっと考えるべき。 治安の維持向上も必要であり、警察官の巡回などももっと増やすことが必要であり、そこに対する投資も必要。 スポーツをする環境も足りていない。バスケットゴールもただ公園にあればいいと言うものではない。近隣住民への理解とあわせてコート of の整備なども持続的にしていく環境は必要。サッカーのできる環境なく、田畑や農地を住宅や商業施設にすることと併せて計画的に設置するべき。 人口が増え過ぎる前にも都市計画を考え直す必要がある。道路整備環境は悪いと言える。子どもが歩くには非常に危ない道路が多い。特に国道や幹線道路は歩道の整備が古いままであり危険な箇所が多くある。常磐線沿線の駅前も古い駅が多く当然ながらTX沿線の駅と比較すると改めて開発をしないと今後に発展が期待できない。年寄りに必要な政策よりも育児と子どもの成長を優先した制度や政策を優先して取り組み持続的に成長する街づくりに本気で取り組んでほしい。 今回のレポートは方向性は良いが柏市の規模としては投資も足りないし到底満足いく内容ではない。	こども施策への投資規模や地域展開、公園・道路等の安全な環境整備、スポーツができる場の確保、治安の維持向上、駅周辺を含めた都市基盤整備などは、こどもが安全・安心に成長できるまちづくりにあたり、重要なものであると認識しております。 本計画の推進にあたっては、国や県の補助制度等も活用しながら、今後、庁内に設置する「(仮称)柏市こども施策推進会議」において、こども施策に関係する部署に加え、都市計画、道路、公園、スポーツ、防犯等を所管する関係部署とも連携し、本計画に基づき、社会情勢に応じて必要な施策に取り組んでまいります。 また、限られた財源や人員の中で、こども・若者等の意見を踏まえつつ、優先順位を整理しながら段階的かつ継続的に取り組んでまいります。 なお、本計画は、基本的な施策の方向性を示すとともに、分野横断的な連携を図りながら、こども・若者施策全体を総合的に推進することを目的としております。 このため、具体的な事業については、各部門の個別計画等に基づき実施・推進することとしております。いただいた御意見につきましては、関係課と共有し、今後の施策や事業の検討にあたっての参考とさせていただきます。
2	私の地域は近くに児童センター等がないため、(特に小学生、中学生)連れてそうした施設に行こうとすると、車やバスでの移動が必須となり、気軽に利用できません。 その結果、特に未就園児を持つお母さんたちが地域で孤立しやすく、一人で育児の不安を抱え込みがちになっています。子どもをスクスク安心して育てるためには、親の心のゆとりが不可欠です。 常設の施設がなくても、移動式の児童館を定期的に地域の公園や広場に巡回させる取り組みや、出張型の子育て相談・サークル活動への支援をぜひ強化してもらえたらと思います。 身近な場所に「大人がいて、親もホッとできる場」がある環境を求めます。	身近な地域で親子が集い、相談できる機会を確保することは、子育て家庭の不安軽減や孤立防止、こどもの安全安心な居場所づくりの推進のため、重要な視点であると考えます。今後、関係部署等と連携し、相談支援や親子の居場所づくり、地域における子育て活動への支援などについて、地域の実情やこども、若者等の意見を踏まえながら検討してまいります。 なお、本計画は、基本的な施策の方向性を示すとともに、分野横断的な連携を図りながら、こども・若者施策全体を総合的に推進することを目的としております。 このため、具体的な事業については、各部門の個別計画等に基づき実施・推進することとしております。いただいた御意見につきましては、関係課と共有し、今後の施策や事業の検討にあたっての参考とさせていただきます。
3	基本目標1-2において、多様な遊びや体験を通じて成長できる場とあります。子どもは公園でよく遊びます。しかし、公園ではボール遊び禁止やキックボード禁止など、柏市が禁止することが多くあります。理由があつての禁止なのかもしれませんが、一律の禁止ではなく、未就学児のボール遊びは認めるなどの柔軟な対応を希望するのですが、可能でしょうか？	本市の公園では、未就学児等含めすべてのボール遊びを一律に禁止しているわけではございません。しかしながら、利用中のボールが公園外に出たり、他の利用者にぶつかるなどが想定される危険なボール遊びや、キックボードの利用といった他の利用者・近隣の方の迷惑になる可能性がある行為については、御遠慮いただいております。 なお、御意見でいただきました未就学児の小さなお子様の簡易なボール遊びは、保護者のもとに行われる安全な行為と考えておりますので、危険なボール遊びとは判断しておりません。 市といたしましては、今後も子どもたちが多様な遊びを通じて成長できるよう努めてまいります。

4	P58-59, (現状)低学年から一人一台配布されたパソコンでインターネットを積極的に学習に活用する→(課題)いじめやインターネット上の様々な被害から子どもを守る必要がある→(市の方向性)相談窓口の整備・周知を行う, という流れに少し違和感を感じます。 デバイスが日常に溶け込むほど, 子どもがSNSを使い始めたいと思う時期も早まるのではないのでしょうか。 また, 社会には多様な仕事があり, 子どもたちの将来も多様であるべきです(例えば, 大工などの職人の担い手不足も全国的な課題となっています)。 全員が低学年のうちから, 漢字ノートに書く練習よりも, タイピングの宿題に家庭で一生懸命に取り組む必要があるのか疑問に感じます。案に書かれている事後対応ももちろん重要な支援ですが, 被害を未然に防ぐ「仕組みづくり」こそ必要だと考えます。それは年に1〜2回の情報モラル講演会といった形式的なものではなく, どうしたら本当に子どもたちをインターネットに起因する悩みやトラブルから守れるか, という視点に立った設計を, 長期的な視点でご検討いただけたら幸いです。	いただいた御意見につきましては, 教育委員会等の関係課に共有させていただき, 今後のこども施策の取組の参考とさせていただきます。
5	① 子ども予算(こども予算枠) 毎年1,000万円程度を「子どもが使い道を提案し, 投票で決める予算」にする。例 公園に遊具を増やす 学校にベンチを設置 イベント開催 海外では「参加型予算(Participatory Budgeting)」として実施例があり, 自治体でも導入が進みつつあります。 ② 柏こどもオンブズマン 子ども専用の第三者相談窓口を設置し, 学校 家庭 行政 どこにも相談しにくい問題を受け止める。行政から独立した立場にすることで, 相談しやすさが高まります。 ③ 18歳卒業プロジェクト 18歳になる全員へ「柏で育ってよかった」と思える体験を市が提供する。例えば 市長との交流会 市内企業見学 地域活動参加 柏の歴史ツアー など。 ④ AI子育てコンシェルジュ 24時間相談できるAIチャットを市が提供し, 手当 保育園 医療 発達相談 イベント を対話形式で案内する。 ⑤ 柏チャレンジ制度 中高生が「こんなイベントをやりたい」「こんな社会活動をしたい」と提案すると 市が 場所 広報 少額補助金 を提供する制度です。「行政が子どものためにやる」から, 「子どもと一緒につくる」へ発想を転換できます。	本計画は, 基本的な施策の方向性を示すとともに, 分野横断的な連携を図りながら, こども・若者施策全体を総合的に推進することを目的としております。 このため, 具体的な事業については, 各部門の個別計画等に基づき実施・推進することとしております。いただいた御意見につきましては, 関係課と共有し, 今後の施策や事業の検討にあたっての参考とさせていただきます。 また, 今後も継続して, 必要な予算の確保と適切な執行に努めてまいります。

6	① こども・若者政策ラボの設置 ～「意見を聞く」から「一緒に政策をつくる」へ～ 計画では子どもの意見を聴くことが重視されていますが、意見を聴くだけではなく、継続的に政策づくりへ参加できる仕組みを設けてはいかがでしょうか。中高生、大学生、若手社会人などで構成する「こども・若者政策ラボ」を設置し、市職員とともに公園、防災、交通、教育、イベントなどの地域課題について議論し、提案する場を設けます。これにより、「意見を反映する」だけでなく、「地域を一緒につくる」経験につながると考えます。 ② こども未来予算(参加型予算)の創設 ～子どもたちが予算の使い道を考える～ 子ども・若者から地域をより良くするアイデアを募集し、市が一定額の予算を確保して実現する制度を創設してはいかがでしょうか。例えば、公園の改善 地域イベント 環境活動 防災イベントなどを子どもたち自身が企画・提案し、市民投票や審査を経て実施します。行政への理解や地域への愛着を育む取組になると考えます。 ③ 柏こどもアプリの整備 ～必要な情報を一つに集約～ 現在は子育て支援やイベント、相談窓口などの情報が分散しています。保護者や子どもが必要な情報をすぐに探せるよう、イベント情報 遊び場 居場所 相談窓口 子育て支援制度 ボランティア募集などを一つにまとめた「柏こどもアプリ」を整備してはいかがでしょうか。利用者目線で情報を集約することで、支援制度の利用促進にもつながると考えます。 ④ 市内企業・大学との連携強化 ～柏ならではの地域資源を生かす～ 柏市には多くの企業や大学があります。これらと連携し、小学生は職業見学 中学生は仕事体験 高校生はインターンシップ 大学生は地域課題解決プロジェクト など、成長段階に応じた学びの機会を体系的に整備してはいかがでしょうか。地域とのつながりを深めるとともに、将来柏市で働き、暮らしたいと思えるきっかけづくりになると考えます。 ⑤ 「18歳までに〇〇体験」プロジェクト ～すべての子どもに地域での体験を～ 子どもの成長には多様な体験が重要です。18歳までに一人ひとりが 農業 福祉 防災 国際交流 文化芸術 環境活動 など複数の体験ができることを目標とした「柏体験プログラム」を創設してはいかがでしょうか。家庭環境に左右されず、すべての子どもに体験の機会を保障することで、自己肯定感や地域への愛着の醸成につながると考えます。 ⑥ 子育て応援企業認証制度 ～企業も「こどもまんなか」の担い手に～ 「こどもまんなか社会」の実現には行政だけでなく企業の協力も欠かせません。市独自に、男性育児休業取得の推進 柔軟な働き方 子育て支援制度 子ども向け地域活動への協力などに積極的な企業を認証する制度を創設してはいかがでしょうか。認証企業を市が積極的にPRすることで、企業の取組を後押しし、地域全体で子育てを支える機運の醸成につながると考えます。 ⑦ こどもウェルビーイングステーションの設置 ～「相談窓口」から「安心できる居場所」へ～ 現在の相談窓口は「困ったときに利用する場所」という印象が強くあります。一方で、日常的に気軽に立ち寄れる場所があれば、悩みが深刻化する前に支援につながることが期待できます。例えば、自習スペース 軽食や休憩スペース 相談ブース フリースペース 地域ボランティアとの交流などを備えた「こどもウェルビーイングステーション」を整備し、「相談する場所」ではなく「安心して過ごせる場所」として運営してはいかがでしょうか。	こども・若者が地域社会の一員として主体的に関わることは、本計画の推進にあたって、重要であると考えております。 本計画では、こども・若者の意見聴取・反映や参画の機会づくりを位置付けており、今後、意見を聴く仕組みの具体化にあたっては、継続的に参加できる仕組みづくりについても検討してまいります。 また、子育て支援制度の利用促進に向けた情報発信については、現在、こども政策課において、LINEやInstagramによるイベント等の子育て情報の発信や、毎年発行している“かしわこそだてハンドブック”などにより、様々な子育て関連情報の発信をおこなっております。引き続き、必要な支援につながりやすい情報提供について調査検討を進めてまいります。 さらに、家庭環境等にかかわらず、こども、若者が挑戦できる機会を確保していくことは、本計画の方向性とも関わるものであるため、御提案いただきました内容も参考にさせていただきながら、こども施策の推進に取り組んでまいります。 なお、本計画は、基本的な施策の方向性を示すとともに、分野横断的な連携を図りながら、こども・若者施策全体を総合的に推進することを目的としております。 このため、具体的な事業については、各部門の個別計画等に基づき実施・推進することとしております。いただいた御意見につきましては、関係課と共有し、今後の施策や事業の検討にあたっての参考とさせていただきます。 また、今後も継続して、必要な予算の確保と適切な執行に努めてまいります。
---	--	---

7	少子化が進む中、未成年がこのままこの街で子を産み、育てたいと思わない限り人口の流出は止められず、納税者が減少していくと思われます。 柏市は広域な分、煩雑になっていると思います。柏市の中心部は柏駅だと考えています。何故なら子が通学する為に經由する場所であり、他の市から来ている子もまた柏駅が中心だからです。 私自身も柏駅に魅力を感じ、中高生の時は友人達とよく遊びました。大人になり、感じることは楽しさよりも不便さです。 柏市で子を産み育てる中、子の健診がウェルネス柏限定であること、子の発達相談もまたウェルネス柏。アフタースクール課に面談するように言われた時は湘南庁舎。マイナンバー申請、更新も市役所。行政センターが良いのに市役所指定です。 子の未来を考えて駅付近に住んだのにも関わらず小学生の居場所は駅付近にはありません。乳幼児となれば尚更なく、ベビーカーのハードルが高いです。とにかく遠いんです。車を運転できない人は不便をととても感じるということは田舎だなと思います。ウェルネス行きのバスは全然無くて、ふるさと公園行きのバスで行くと、ウェルネスの上の道にバス停があります。案内される道は獣道のようなかろうじて階段がある崖の様な所です。将来車に乗らない子が増えるとなると、駅近に行政が集まっている松戸市の方が便利だよ、と伝えたい気持ちです。どうか駅前にまとめて下さい。今後若い方々の為にもお願いいたします。	本計画の対象となるこども、若者、子育て当事者をはじめ、どのライフステージにある人も希望を持って過ごし、安心感、充実感、満足感を得ながら暮らせるまちづくりを進めるうえで、様々な暮らしの場面で必要なサービスを利用しやすい環境を整えることは、安心してこどもを産み育て、住み続けたいと思えるまちづくりにおいて重要であると考えます。いただいた御意見は関係部署に共有させていただきます。 また、柏駅周辺への機能集約や、こども・子育て支援機能、居場所づくり、公共交通の利便性向上については、本計画のみで具体的に位置付けられるものではございませんが、都市部門や交通部門等とも共有し、今後のまちづくりやこども、若者施策を検討する上での参考とさせていただきます。
8	高校生の娘と中学生の息子がいます。放課後はお友達とテトテ・ラコルタ・パレット柏などで勉強をしたりとても助かっております。 ただ、柏駅前が高島屋とモディぐらいしかない為、若者が気軽にオシャレを楽しめる洋服屋さんが本当に少ないです。それは子供服の時からそう感じていました。 洋服を買いにレイクタウン・船橋ららぽーと・アリオ柏・柏の葉ららぽーと・おおたかの森のショッピングモールに行く事はありますが、柏駅前では若者が好む洋服屋がありません。 友達と柏駅前で遊ぶとしたらカラオケやドンキで買い物ぐらいでしょうか…。それしか若い子には需要がないようです。あと学生が気軽に利用出来るフードコートもないので学校帰りも困ってしまうようです。モディのゴンチャを買って歩きながら飲んだりはしていますが、あとはモディ前のサイズなどになってしまうようで、ららぽーとみたいな学校帰りに座れるフードコートがあればいいのに…と言っております。 昔のVAT館があった時は街も元気で若い子も駅前でショッピングを楽しめましたし、柏駅前に行けば全て揃うイメージでしたが、今の柏駅にはそのイメージが全くありません。 わざわざ郊外まで行かないとオシャレで可愛い洋服やカッコいい洋服がない、つまらない街になりつつあります。そごうの跡地に図書館や市役所が移動してくる案もあるようですが、市役所は高島屋の新館に行けば出張所がありますし、図書館も今はスマホでなんでも読めるデジタル時代の為、残念ながら皆さん求めておりません。 もし若者の読書離れを気にするようでしたら柏の葉にあるTSUTAYA書店など老若男女が楽しめる空間じゃないと今の子供達は立ち寄りません。若い子達が柏駅までわざわざ電車に乗って遊びに行きたいと思えるような魅力ある街作りに期待しております。	こども、若者が将来にわたって住み続けたいと思える、みんなの居場所になれるまちづくりを進めることは重要であると認識しております。 柏駅周辺のにぎわいや、若者が利用しやすい商業・交流・空間のあり方については、本計画のみで具体的に位置付けられるものではございませんが、いただいた御意見は、都市部門をはじめとする関係部署とも共有し、今後のまちづくりやこども、若者施策を検討する上での参考とさせていただきます。
9	○子育て支援について(療育) 我が子も療育を経験し当時は大変お世話になりました。 その経験を踏まえこれから療育を必要とする親御さんへの支援について意見を出したいと思います。 初めて療育が必要だとわかった時、親は「未知の世界」へ飛び込むような強い不安や孤独感を抱きます。 特に、療育先が決まるまでの期間は辛いものです。現在、市から提供される施設情報だけでは各事業所の具体的な支援内容や特色、実際の雰囲気が見えにくいと感じます。 新しく療育を検討する親御さんが少しでも前向きに安心して一歩を踏み出せるよう各療育先の細かい内容や特徴などの情報をウェブサイト等で気軽に検索出来る仕組みを作って頂きたいとおもいます。 ②「若者の居場所について」今現在、中学生の子どもを育てる親です。 計画案にある「若者の居場所づくり」の推進に賛同します。 市内のパレット柏は、常に混雑なイメージが強くて学習意欲があってもスペースが足りずに諦めてしまう子も少なからず居るとおもいます。 安心・安全に自習が出来る環境は大切で空間提供だけではなくスタッフの見守りなどあれば親の視点からも安心して送り出せます。 今現在、TeToTe子育て支援複合施設は度々訪れる居場所ではありますが、「若者の居場所」の設置場所については駅前だけでなく周辺地域からのアクセスも大切だと思います。例えば、柏の葉エリアなどは市バスのアクセスも良いので今後検討して頂きたいと思います。	療育に関する情報の仕組みづくりにつきましては、関係部署に共有させていただき、今後の情報提供のあり方を検討する際の参考とさせていただきます。 また、こどもの居場所づくりについては、こども、若者施策を推進するうえで重要な事業の1つであると考えていることから、様々な地域のニーズやこども、若者等の意見等を踏まえ、引き続き検討していきたいと考えております。 なお、柏の葉エリアについては、令和9年度より、青少年センターがあった場所に、児童相談所や青少年センター等の機能を含めた、(仮称)柏市こども・若者相談センターが開所します。ぜひ御利用を御検討ください。

10	柏市子ども・子育て会議の委員、及び担当市職員の尽力により、市民として市の将来に期待が持てる柏市こども若者計画(案)が策定されつつあることに感謝します。 一方で、柏市こども若者計画(案)を、こども基本法やこども大綱の理念、および先行する近隣市の計画と比較すると、国の指針を忠実に反映しているものの、主に「参画の実効性」「権利擁護の検証体制」「多文化共生への対応」「独自指標の設定」の4点に点において、いくつか問題点や課題が見受けられるのでその点について指摘させていただきたい。もちろん、近隣市の計画がすべて正しいとするものではなく、実効性については課題や問題点は同様にあると認識しているが、計画を比較することで、柏市こども若者計画(案)の自治体が策定することも計画として、不十分な点を明らかにすることを目的としていることをご理解いただきたい。 (1)こども・若者の意見反映・参画の具体化： こども基本法およびこども大綱では、こどもや若者を「権利の主体」と位置づけ、その意見を施策に反映させることを義務付けている。柏市の計画案では、意見聴取の仕組みとして「(仮称)こども・若者モニター」の実施や審議会への登用を掲げているが、依然として「(仮称)」の段階であり、恒常的な組織としての具体性に欠けている。流山市の計画では、小中学生が市政に対して定期的・継続的に政策提言を行う「流山市こども会議」を常設し、市長や教育長へ直接提案する仕組みを整えている。また、松戸市の計画では、市長から委嘱された「こどもモニター」がグループワークやフィールドワークを行い、政策提言や「こども新聞」の発行を重点事業として実施することとしている。柏市の計画案においては、「(仮称)こども・若者モニター」の実施や審議会等への登用が挙げられているが、あくまで「(仮称)」であり、具体的かつ恒常的な参画の仕組みづくりが今後の課題のままとなっている。「(仮称)」を早期に外し、流山市のような常設の会議体を設置することや、松戸市のようにこどもが主体となって情報発信する仕組みを明記し取り組むべきである。何らかの理由でただちに取り組めないなら、長期的な目標を示し、目標を達成するために計画期間中に「意見表明・参画」の仕組みづくりのために段階的に何を行うか明記すべきである。 (2)権利保障の観点からの「評価・検証体制」： こども大綱では、施策の総合性を確保し、関係機関が連携して権利擁護を図ることを求めている。柏市の計画案では、既存の「子ども・子育て会議」等による進捗管理については言及されているが、「こどもの権利」に特化した専門的な評価体制が明確に示されていない。流山市の計画では、計画の評価・検証にあたり、専門的な調査審議を行う「流山市こどもの権利部会」の設置検討を重点事業として明記している。柏市の計画案でも、権利保障のPDCAサイクルを専門的にチェックする「権利擁護専門部会」等の設置を計画で示すべきである。 (3)多文化背景を持つ家庭への支援の施策化： こども基本法の基本理念には、「心身の状況、置かれている環境等にかかわらず」権利が保障されることが掲げられている。柏市の現状把握アンケートでは、外国籍世帯の保護者が「日本語に自信が持てない」「相談をためらう」といった孤立を感じている実態が顕在化されているが、計画案での具体的施策は「分かりやすい情報提供」等に留まっている。松戸市の計画では、基本目標の一つに「障害の有無や国籍等にかかわらず、こどもが安心して共に暮らすことができる」を掲げ、「にほんごルーム」の運営や、13か国語対応の相談、多言語読み上げ機能の提供など、非常に具体的な支援を盛り込んでいる。同様の課題を抱える外国籍の住民は今後も増加が予想される。柏市のアンケートで判明した「言語の壁による孤立」に対応するため、多文化共生に特化した基本目標や重点事業(日本語指導の充実や多言語相談体制の強化)を具体的に追加すべきである。 (4)成果指標の地域独自性とEBPMの強化： こども大綱は、地方公共団体に対し、地域の状況に応じた「市町村こども計画」の策定を求めているが、柏市の成果指標の多くは、国の「こども大綱」の数値をそのまま引用し、柏市の現状値と比較する形式をとっており、柏市独自の課題に即した目標設定が不十分である。近隣市の計画では、市独自の「まちづくり達成度アンケート」やニーズ調査に基づき、「地域にホッとできる居場所があるか」「子育ての不安が軽減されたか」といった、市民の実感に即した独自指標を設定している。特に松戸市はEBPM(証拠に基づく政策立案)を重視し、施策の背景として統計データや保護者の声を具体的に示している。国の目標に準拠するだけでなく、柏市のアンケートで得られた「中高生の居場所不足」や「多文化背景の課題」に対応した、柏市独自の成果指標を設定し、より説得力のあるEBPMを推進すべきである。 (5)こども若者の性被害の実態と防止対策の記述： これは近隣市との比較によるものではないが、昨今、教育現場等をはじめとして、こども若者の性被害が大きな問題となっている。国も対策に取り組んでいるが、弱い立場に置かれたこどもや若者が性犯罪・性暴力の被害に遭う事案が後を絶たない。柏市の計画案には、基本目標1-7「自殺や犯罪、災害から守られた安全な環境のもと、安心して日々の生活を送ることができる」では、漠然とした記述で性被害については明確に書かれていないが、柏市として、こども若者の安心安全な居場所づくりを目指すのであれば、現状の性被害実態を明らかにして、こども若者の尊厳を著しく踏みにじる行為に対して毅然とした姿勢で防止対策に取り組むことを明記すべきである。	計画策定時に実施したこども、若者からの意見聴取の結果からも、こどもの年代や置かれている環境等に応じて様々な手法をとる必要があることが分かりました。 このことを踏まえ、本計画書においては、例示として手法をいくつか上げておりますが、具体的な手法を明記することはしておりません。今後は、意見を聴く目的や内容、対象となるこどもの年代などを考慮し、その都度最適な手法を柔軟に検討しながら、こどもの意見聴取の取組を推進してまいります。 また、こどもの権利に関しましては、「こどもの権利条約」の理念に基づき、現在も各種施策を展開しているところです。そして、こどもの権利保障につきましては、児童相談所設置市に指定する閣議決定がされ、「こどもの最善の利益」を守るため、福祉、保健、教育をはじめとした、関係機関と密接に連携した、切れ目のない総合的な相談、支援体制を目指し、令和9年2月の児童相談所開設に向けて、準備を進めているところであります。 児童相談所の運営にあたっては、児童福祉法の理念に基づき、こどもが適切な養育を受け、健やかな成長、発達や自立等を保障される権利を有すること、こども一人ひとりが権利の主体であること、こどもの意見が尊重されることを基本としていくことから、(仮称)柏市こども・若者相談センターとして、地域住民、関係機関等と連携し、いかなる場面においても「こどもの最善の利益」を優先した支援を実施してまいります。 さらに、多文化背景を持つ御家庭への支援についてですが、本計画はこども施策全体の方向性を示す計画であるため、個別具体的な事業の記載は見送らせていただきます。しかしながら、御指摘いただいた視点は非常に重要であると認識しておりますため、本計画の推進にあたりましては、多文化共生や教育を担当する関係課へ共有し、こども施策の推進に努めてまいります。 最後に、本計画における成果指標につきましては、まずは「全国の中で柏市がどのような状況にあるのか」を客観的に把握・評価できるよう、国と同じ指標を採用いたしました。国と基準を揃えることで比較がしやすくなり、より良い取り組みを取り入れるきっかけになると考えております。一方で、柏市ならではの子育て環境や課題があることも十分に認識しております。そのため、今後は国と共通の指標で全体の状況を把握しつつ、次期計画の策定時においては新たな独自指標の設定等も検討し、より本市の実情に合った計画の進捗管理に努めてまいります。
----	--	--

11	子ども計画では、「安心・安全な居場所づくり」「子ども・保護者に寄り添った支援」「関係機関との連携」などが掲げられています。しかし、私自身がアフタースクール事業で経験したことからは、理念と現場の運用との間に大きな隔たりを感じました。私はアフタースクール事業について、市と長期間にわたり意見交換を行ってきました。 しかし、制度開始を急いだことで、保護者への説明や運営体制の整理が十分ではないまま開始されたという印象を受けています。 特に、支援が必要な子どもへの対応では大きな課題を感じました。実際に開始されたアフタースクール事業では、当初、話し合いもないまま個別配慮を断られました。その後面談は実施していただけたものの、質問への回答には約2週間を要し、「ケーススタディを実施する」と説明を受けた後も、2か月以上進捗の連絡はありませんでした。さらに、「内容の精査や協議に時間を要している」との説明はありましたが、どのような課題を整理し、何を改善しようとしているのかは最後まで示されませんでした。 また、「改善に努める」との回答は何度もありましたが、具体的な改善策を尋ねても、「定期的な巡回」「研修の実施」「アンケートやニーズ調査、こども会議の実施」といった取組の説明に終始しました。しかし、これらは意見を集めたり運営を行うための取組であり、保護者が指摘した課題への改善策ではありません。 子ども計画では、施策を実施したことではなく、「何を課題と認識し、何を改善し、その結果どう変わったのか」を検証し、市民に分かる形で示す仕組みを位置付けていただきたいと思います。 子ども計画でも「安心・安全」が掲げられていますが、今回の経験を通じて、行政が考える「安心・安全」と、保護者が求める「安心・安全」との間には大きな認識の差があることを痛感しました。「安全を最優先に考えている」という説明だけでは保護者は安心できません。なぜその判断に至ったのか、現場で本当に実現可能な運用なのか、課題が生じた場合にどのように改善していくのかまで示されて初めて、保護者は安心できるのだと思います。 また、「支援が必要な子どもも受け入れる」という方針が示されていましたが、担当課との協議を重ねても、具体的な支援方法や安全確保の見通し、課題への改善策は最後まで示されませんでした。そのため、安心して子どもを預けられるという信頼を持つことができず、我が家は利用を辞退しました。「受け入れる」という理念が掲げられていても、保護者が安心して利用できなければ、その理念は実現されているとは言えないと感じます。 さらに、受け入れが難しい場合には、放課後等デイサービスや相談支援を含めた放課後全体の支援体制を整備する必要があると考えます。しかし、放課後等デイサービスには空きが少なく、相談支援専門員も不足しており、約60%の家庭がセルフプランを選択せざるを得ない状況です。子ども計画では、アフタースクールだけではなく、放課後全体を見据えた支援体制についても具体的に位置付けていただきたいと思います。今回の経験を通じて最も強く感じたのは、利用者自身が教育、福祉、事業者など複数の関係機関の間に立ち、情報共有や課題整理、調整役を担わなければならない状況への疑問です。支援が必要な家庭ほど複数の制度や機関が関わります。子ども計画では、保護者が関係機関を回るのではなく、行政が関係部署や専門機関をつなぎ、支援全体をコーディネートする仕組みを位置付けていただきたいと思います。 柏市では「市民のための行政」を掲げていますが、実際には、担当外であることを理由に十分な説明がないまま対応を断られたり、どこへ相談すればよいのか案内されないまま、自ら関係部署へ問い合わせなければならない場面がありました。 また、重要な連絡への返信や経過の共有が十分ではないこともありました。一つ一つは小さなことかもしれませんが、このような対応の積み重ねによって行政への信頼は失われます。「市民に寄り添う」という理念を実現するためには、日々の丁寧な説明やコミュニケーションも重要な支援の一つとして位置付けていただきたいと思います。また、「子どもや保護者の意見を聴く」ことについても、アンケート等を実施すること自体が目的ではなく、集めた意見をどのように検討し、何を改善し、どのような理由で採用・不採用を判断したのかまで、市民が確認できる仕組みを整備していただきたいと思います。 子ども計画が理念を掲げるだけの計画ではなく、現場で課題を改善し、その結果を市民や保護者が実感できる計画となることを期待しています。※こちらのフォームの影響が改行等が全て消えてしまうため読みにくい文章で申し訳ありません。	個別事業の内容につきましては、実際の事業を所管する関係課へ伝えさせていただきます。 また、今回策定する「柏市こども若者計画」は、本市のこども施策全体の方向性を示す基本的な計画として位置づけております。しかしながら、御指摘のとおり、決して理念を掲げるだけの計画とせず、本計画の方向性のもと、実際に事業を実施する関係課と連携を図りながら、市民や保護者の皆様に施策の成果を実感していただけるよう、こども施策の推進に努めてまいります。
----	--	---

12	①文中もグラフも和暦と西暦が混在していて大変読み取りにくい。文中全ての年号は和暦ではなく西暦にしてほしい。特にグラフは和暦では非常にわかりづらい。どうしても和暦が書きたければ西暦(和暦)表記にしてほしい。 ②国の政策を引用するのは良いのだが、画像をそのまま貼り付けるような記載は、柏市の計画が国のコピペのような印象になるので止めてほしい。国の政策を勘案した上で、かみ砕いて検討し、自分たちの計画をちゃんとつくっていくために相応しい記載にしてほしい。コピペは画像の解像度が低かったり、文字が小さくて読み取れなかったり、文字列として認識できないため、音声読み上げ機能が使えないといった意味でも問題があると考える。 ③「本市を取り巻く現状と課題」については、こどもの成育に関する基礎情報が薄い気がする。今の子どもたちがどのような環境で育っているのか、子育てに関わっていない人でも把握できるような情報をもっと必要ではないか。例えば、市内に保育園・幼稚園・小学校・学童保育・放課後デイ・中学校・高校・大学など、子どもが主に過ごすような施設がどこにどのように設置されているのか、それぞれの在籍人数の推移など、こども計画の基礎資料としてあっても良いのでは。そこがあった上で「いじめ・不登校」の数が載っていないと、情報として偏っているように思う。障がい児数が載っているが、一括りに障がい児でまとめられているのも気になる。どのような障がいを持つ子がどれくらいいるのか、それぞれの障がい児が過ごす環境は十分なのか、何もわからない。「本市を取り巻く現状と課題」については、こども政策を検討する上で必要な情報をもっと積み上げるべきだと思う。 ④第3章の「現状」のところに書いてあるのが、柏市の計画の抜粋では、まったく「現状」が分からない。子ども・子育て会議で「現状」にどのようなことを書くべきか、しっかり話し合う必要があるのでは？「現状」を把握しないまま話し合っているのでは？と思ってしまう。 ⑤「課題」がちゃんと示されたのは良いし、「市の方向性」も良いと思うが、「市の方向性」を具体的にどのような施策につなげるかがあまり書いていないので、実効性に乏しいのではないかと考える。TOPICで紹介するだけでは不十分かと。 ⑥基本目標1-1「こども・若者が意見を表明し、その意見が尊重され、社会づくりに反映される」については、まず柏市の全ての部署がこれを認識し、自分たちの施策に反映する必要がある。各課がこれを認識し、施策に反映できたと思うのか、定期的にアンケートを取るなどして評価指標に加えてほしい。かなり意識して進めている部署もあれば、自分たちと関係ないと思っていそうな部署もあるので、庁内から意識改革してほしい。	本計画につきましては、市の文書事務規定に基づき、原則として和暦表記を基本として作成しております。なお、和暦と西暦が混在し読み取りづらい箇所があったことにつきましては表記を統一するよう修正を行わせていただきます。 次に、第1章は、計画策定の「前提」として引用しており、本市独自の考え方や方向性は第3章に記載しております。また、引用画像の見づらさや音声読み上げへの対応につきましては、御指摘を踏まえ可能な限りデータの差替等を行い、どなたにとっても読みやすい計画書へ修正いたします。 また、各施設の状況や障がいの特性等の詳細なデータは、各分野の個別計画において把握・分析を行っております。本計画はこども施策の全体的な方向性を定めるマスタープランの位置づけとしているため、現状の記載は全体像にとどめ、具体的な施策も網羅的ではなく象徴的なTOPICの紹介としております。しかし、本計画の推進にあたりましては、各個別計画での情報や現状をしっかりと踏まえ、関係各課と連携しながら実効性のあるこども施策を進めてまいります。 最後に、成果指標につきましては、客観的な全国比較を行うため国と同じ指標を採用しておりますが、次期計画の策定時においては新たな独自指標の設定等も検討し、より本市の実情に合った計画の進行管理に努めてまいります。 また、こどもの意見聴取・反映については、こども家庭庁から講師を招聘した職員向け研修等の取組を始めしております。引き続き職員の意識醸成を図り、こどもたちの声を施策に反映させる実践に努めてまいります。
13	目標標2-1 仕事と子育てをどのようなバランスで生活していくのかは、各家庭によって様々だと思います。「親は仕事と子育てをどちらも最大限に頑張り両立する」ことばかりを前提とした話になっているのではないのでしょうか。 そもそも、「子どもが小さなうちの数年間は、本当は働かずに育児に専念したいけど、経済的に心配で働かざるを得ない」という心理の家庭も多いと思います(ひとり親家庭・夫婦揃っている家庭限らず)。そういった家庭に寄り添う形の支援はできないのでしょうか。 「子どもまん中」ならば、こどもと親の係係性を1番大事に考えて、「数年間は子育てに力を入れたい」と思う家庭に対しての金銭的な支援や、ブランクがあっても安心して復職することができる支援を組み込むべきだと思います。 基本目標2-2「市の方向性」に賛成です。本当に伝えたいことをキャッチーにまとめて、「こどもまんなか週間」のようなものを作り、どんどん広めたらよいと思います。選挙の時と同様に、通勤・通学時に目・耳に入るような周知の仕方を検討したらいかがでしょうか。バス、電車などの公共交通機関や、コンビニ、スーパーなどとコラボしたり、子どもからお年寄りまで全世代が「子どもを大切にすること」「少子化がよくないこと」などの周知を真面目だけでも堅苦しくなく、やっていくのはいかがでしょうか。 「こどもまんなか」社会になるためには、市や国や会社等からの経済的な支援の他に、社会全体の考え方を変えていく必要があると感じます。「子どもを大切にしよう」「子どもが安心して暮らし遊べる街にしよう」「子どもがいる生活が当たり前」等のことを、いろいろな世代の、いろいろな立場の人がみんな「子どもは宝」であると認める考え方に変わっていけたらよいのではないかと思います。社会全体の考えを変えることは容易ではありません。理解が得られ難いとされる方々(お年寄り世代や独身の人など)への協力を求めるのはもちろんですが、より若い頃からの「教育」の中で考え方を伝える必要があると思います。 「教育」といっても、保育園や学校だけが担うものではなく、座学で何かを教えるだけでもありません。「幼い頃から家庭、園・学校、地域の中で多世代と交流することが当たり前になること」が「こどもんなか」教育の1つであると感じています。子どものうちから人と人との関わりを持つことで、AIやその他の最新技術では代替できない繋がりや感情を知ることができ、10年後、20年後には「子どもを産み育てたい」「子どもは各家庭だけでなく社会全体で見守り育てるもの」という意識が芽生えるのではないのでしょうか。	御意見いただきましたとおり、「両立」を頑張る方への支援だけでなく、「今は子育てに専念したい」という各家庭の多様な選択は、こどもまんなか社会の実現にとって重要な視点であると認識しております。 金銭的な給付支援等の制度設計につきましては、国や県の動向を注視する必要がありますが、市といたしましても重要な課題と捉えております。また、一時的に家庭に入られた方が、ブランクがあっても安心して復職できる環境づくりにつきましても、関係機関等と連携した就労支援や相談体制の充実など、社会情勢を踏まえつつ、希望に寄り添った施策の推進に努めてまいります。 また、こどもまんなか社会の実現に向け、民間企業や公共交通機関と連携した日常的でキャッチーな周知方法など、大変参考になる御意見として承りました。 いただいた御提案も含め今後こども施策の情報発信を推進する際の手法について、検討してまいります。 最後に、地域の中で様々な世代と関わり合いながら育つ環境づくりは、本計画が目指す重要な柱の一つです。地域づくりや教育分野等を担当する関係課と連携を図り、こどもたちが地域社会の中で多様な人々と交流し、温かく見守られながら成長できる環境(居場所づくりや地域交流など)の実践に努めてまいります。

14	はじめまして。 柏市こども若者計画を拝見させていただきました。 私自身の経験した中で感じたことをお話しさせてください。 私は今、小学三年のASDの息子を育てています。 現在、休むことなく気に小学校の支援級に通っています。 息子が二歳を過ぎたころ、発達に違和感を覚えましたが、周りに相談できる人もおらず、ただただ成長を見守ることしかできませんでした。特定の物へのこだわり、発語もなく近くの小児科へ。専門である岡田病院の岡田先生を紹介していただき、二歳半でASDの診断を受けました。あの時はまだ幼い息子の将来に光を見出すことができず、悩み苦しんだことを覚えています。手探りの中、療育の存在を知り、藁にも縋る思いで療育を開始しました。しかし、なぜ、どうの様に生かしたらいいのかわからず、始めた当初は療育の無意味ささえ感じていました。 色々と調べる中で、青葉会リトルペガサスに出会い、三歳になったころ転所しました。始めの療育施設とは全く違い、愛のある厳しさと母へのサポートがあり、驚いたのを覚えています。入所中も、決して平坦な道のりではありませんでしたが、先生方が常に私の背中を押してくださり、無事に幼稚園を卒園することができました。あの時たくさん流した涙が、現在の私と息子の笑顔に繋がっています。 特性のある子どもの育児は、正直大変です。定型発達のお子さんを見て羨んだこともありました。子への接し方、声のかけ方、手を差し伸べるタイミングなど、リトルペガサスの先生方からアドバイスをいただきながら試行錯誤し、日々を送るので精一杯でした。子を愛せなくなった時もありました。笑うことも出来なかった時もありました。ただ、母子通園をしたお蔭で、「次の通園の時、先生に聞いてみよう。話してみよう。」と思えることで乗り越えられたのも事実です。リトルペガサスで沢山のママ友もできました。私自身、心を許せる親友もできました。療育は母子通園でよかった、リトルペガサスで良かった、と今は感謝しかありません。 初めから母子分離の療育を選択していたら、今はないと強く感じます。 療育は子だけでなく、母も学ぶべきかと思います。母が笑顔でなければ子は笑顔にはならないと思うからです。 みんなの笑顔を、、、すごくいい取り組みだと思います。 当時の私のようなママを一人でも多く笑顔にしてほしい。 そしてどうか、難しい育児をしているママ達の笑顔を大切にしてほしいです。	御自身の子育ての経験を踏まえた貴重な御意見として承りました。 特性のあるお子さまの育ちを支えるため、子育て当事者が相談できる環境や、子育ての不安を一人で抱え込まないための相談支援体制の整備・拡充に取り組んでまいります。
----	--	--

こども版への意見等一覧

15	子どもの気持ちを尊重し、子どもが、健やかに成長、生活しやすくなるよう、引き続き検討しより良い街づくりにして頂きたいです。	いただいた御意見を踏まえ、関係部署と連携し、こども施策の推進に取り組むとともに、よりよいまちづくりに努めてまいります。
16	子供たちに学校は居場所と思ってほしい	学校がこどもたちにとって、安心して過ごすことができ、自分らしくいられる居場所であることは大変重要であると認識しております。 引き続き、学校や関係機関と連携しながら、こどもたち一人ひとりが安心して学び、過ごすことのできる居場所づくりに努めてまいります。
17	子ども小学1年生から6年生までの何かをやりたいです。	今後市として取り組んでいく意見聴取事業の中で、小学生の皆さん等のこども・若者がやってみたいことや日頃感じていることを伝えられる場づくりに努めてまいります。
18	分かりやすく短くまとまっていて読みやすかった	引き続き、分かりやすく、こども・若者をはじめ多くの方に伝わりやすい計画となるよう努めてまいります。
19	基本目標1-1の自分の意見はすべて柏市に見られるの？	いただいた御意見については、プライバシーの視点も考慮し、市が内容を確認させていただき、こども・若者の思いや考えを大切にしながら、市の取組に活かしていくよう努めてまいります。
20	西原地区に住んでおりますが、長期休暇に子どもたちが集まれる施設(児童館等)が近隣になく、困ってます。	こどもたちが長期休暇中も安全・安心に過ごせる身近な居場所を確保することは重要であると認識しております。 児童センター等の施設整備については、本計画を所管する課のみで対応できるものではないことから、関係部署に共有し、こどもの安全安心な居場所づくり等の取組の参考とさせていただきます。
21	「流山市こども計画(こども版)」と、「柏市こども若者計画 こども版(案)」を比較すると、柏市のこども版に関して、主に「権利の主体としての参画の具体性」「権利保障の解説の充実度」「計画の評価・検証体制」の3点について課題が浮き彫りになるのでそれを指摘したい。 (1)こども・若者の「参画・意見反映」の仕組みが未具体： 流山市の計画では、こどもが単に意見を言うだけでなく、市政に反映させる具体的な常設の仕組みが明記されている。小中学生が市に対して定期的に政策提言を行う「流山市こども会議」を設置することや、高校生・大学生がまちづくりの課題を解決する「若者まちづくり事業」を重点事業として掲げている。一方、柏市(案)では「(仮称)こども・若者モニター」の実施や審議会への登用を検討しているが、現時点では「(仮称)」の段階であり、流山市のような具体的かつ恒常的な組織化については今後の課題とされ、前向きさが感じられない。 (2)「こどもの権利」や「目指す姿」の解説が不十分： こども版の計画において、こども自身が自分の権利を理解し、どのようなまちを目指しているのかを実感できる内容になっているかという点で差がある。流山市は、「子どもの権利条約」の4原則(命、最善の利益、意見表明、差別のないこと)について、アイコンや平易な言葉で詳しく解説している。また、ユニセフの指標に基づき、「こどもにやさしいまち」の12の条件(こどもが決定に影響を及ぼせる、友達と遊べるなど)を具体的に示し、目指すべき将来像を分かりやすく提示している。柏市(案)では、権利の4原則などの基本的な概念は記載されているが、流山市と比較すると解説が簡素であり、こどもが自分たちの生活と権利のつながりを具体的にイメージしにくい構成となっている。 (3)権利保障の観点からの「評価・検証体制」の欠如： 計画が正しく進んでいるかをチェックする体制において、流山市は「権利」を重視した専門的な仕組みを導入している。計画の評価・検証を行うために、専門的な「こどもの権利部会」を新たに設置することを明記している。これにより、権利保障の観点からPDCAサイクルを回す体制を整えていることがわかる。柏市(案)では、既存の「柏市子ども・子育て会議」や庁内の推進会議による進捗管理については言及されているが、「こどもの権利」に特化した専門組織による検証体制については明示されていない。　まとめると、柏市の計画(案)は、国の「こどもまんなか社会」の理念は反映しているものの、「こどもが自分たちの力でまちを変えられる仕組み」や「権利保障を専門的にチェックする体制」という実効性の面で、流山市の計画に比べると具体性に欠ける点が課題である。	計画策定時に実施したこども、若者からの意見聴取の結果からも、こどもの年代や置かれている環境等に応じて様々な手法をとる必要があることが分かりました。 このことを踏まえ、本計画書においては、例示として手法をいくつか上げておりますが、具体的な手法を明記することはしておりません。今後は、意見を聴く目的や内容、対象となるこどもの年代などを考慮し、その都度最適な手法を柔軟に検討しながら、こどもの意見聴取の取組を推進してまいります。 また、こどもの権利に関しましては、「こどもの権利条約」の理念に基づき、現在も各種施策を展開しているところです。そして、こどもの権利保障につきましては、児童相談所設置市に指定する閣議決定がされ、「こどもの最善の利益」を守るため、福祉、保健、教育をはじめとした、関係機関と密接に連携した、切れ目のない総合的な相談、支援体制を目指し、令和9年2月の児童相談所開設に向けて、準備を進めているところで す。 児童相談所の運営にあたっては、児童福祉法の理念に基づき、こどもが適切な養育を受け、健やかな成長、発達や自立等を保障される権利を有すること、こども一人ひとりが権利の主体であること、こどもの意見が尊重されることを基本としていくことから、(仮称)柏市こども・若者相談センターとして、地域住民、関係機関等と連携し、いかなる場面においても「こどもの最善の利益」を優先した支援を実施してまいります。